

平成26年3月宮古市議会定例会一般質問通告一覧表

(質問順)

質問月日	質問者	質問事項
2月26日 (水曜日)	8番 須賀原 チエ子議員	1 仮設住宅の今後について P 1 2 除雪対策について P 1 3 復興に若者と女性の活用を P 2
	12番 橋本 久夫 議員	1 がん教育について P 3 2 海中環境調査と海洋実習について P 3 3 文化の振興について P 4
	5番 長門 孝則 議員	1 J R山田線(宮古～釜石間)について P 5 2 市民憲章について P 5
	24番 古舘 章秀 議員	1 都市計画法に基づく工業専用地域等の見直しについて P 6 2 東日本大震災復興住宅整備対象以外の宅地等対策について P 7 3 木の博物館の整備状況と調査資料等の活用状況等について P 7
	16番 中嶋 榮 議員	1 住居表示の整備について P 9 2 消防団の処遇改善について P 9
2月27日 (木曜日)	20番 工藤 小百合 議員	1 災害公営住宅について P 10 2 災害対策について P 10
	4番 佐々木 勝 議員	1 盛岡宮古横断道路及び三陸縦貫道路の整備を受けてのまちづくりについて P 11
	13番 松本 尚美 議員	1 平成26年度経営方針について P 12
	6番 落合 久三 議員	1 震災復旧の到達を踏まえた漁業振興・復興の課題について P 14 2 住宅再建への支援策の充実と住宅二重ローン対策について P 14 3 介護予防サービス事業について P 14
	25番 内舘 勝則 議員	1 宮古市の空き家対策について P 15 2 宮古市教育行政方針について P 15

質問月日	質問者	質問事項	
2月28日 (金曜日)	23番 崎尾 誠 議員	1 産業育成について	P 18
		2 生活関連道路の整備について	P 18
	21番 高橋 秀正 議員	1 J R山田線について	P 19
		2 金浜復興団地の下水道整備について	P 19
	18番 横田 有平 議員	1 養殖ワカメ・昆布の漁業行使者対策について	P 20
	2 栽培漁業の推進について	P 20	
	3 高速交通時代への対応について	P 21	
	11番 田中 尚 議員	1 まちづくりの基本目標について	P 22
	7番 茂市 敏之 議員	1 高齢化社会への対応について	P 24
3月3日 (月曜日)	3番 竹花 邦彦 議員	1 J R山田線の早期復旧とJ R東日本の三陸 鉄道移管・運営提案について	P 26
		2 医療・介護・子育て支援の課題について	P 26
	26番 北村 進 議員	1 宮古市経営方針について	P 28
		2 教育行政方針について	P 28

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月26日(水)

質問順位 1番

質問者 議席番号 8番 須賀原 チエ子 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 仮設住宅の今後について	<p>東日本大震災の大津波により家を失った被災者の方々は、仮設住宅に入居してから約3年が経ち、現在も狭く寒い仮設住宅での暮らしを余儀なくされています。</p> <p>宮古市の災害公営住宅の建設も目途が立ち始めましたが、ここに来て被災者は今後の生活により一層不安を感じています。</p> <p>一方では、自立再建を果たした方々も多く、仮設住宅では櫛の歯が欠けたように空き家が目立ってきました。</p> <p>そうした中で、先日、大船渡北小学校校庭の仮設住宅の撤去のニュースが流れました。校庭が使えずに児童・生徒に運動不足も懸念されます。</p> <p>そこで、仮設住宅の今後について、次のことを伺います。</p> <p>① 仮設住宅の空き状況を伺います。</p> <p>② 今後の仮設住宅の集約予定を伺います。</p>	
2 除雪対策について	<p>2週連続で週末に積雪があり、春雪のような重量のある雪に市民は大変苦労しました。</p> <p>これまで歩道などの除雪は住民の協働によりなされましたが、近年は少子高齢化によりこれまでのように住民総出での除雪が困難になりつつあります。特に通学路はこれまでPTAが担ってききましたが、生活スタイルの変化や核家族化、そして住民の考え方の変化により困難になってきました。このような状況の中、津波等の災害が発生した時に迅速な避難が出来るのか危惧されます。</p> <p>車道の除雪も路肩に雪を寄せることで道幅が狭くなりすれ違いもできない状態で、地域によっては除雪が遅れ生活に支障が出ています。いつ歩行者に事故が起きてもおかしくない状況です。そこで、歩道の除雪が重要になります。</p> <p>昨今、歩道用の除雪機は手頃な値段で小回りの効く機種が多く販売されています。このような機械を利用し住民の協働のもと、通学路や避難道路の除雪が可能になると思われます。そこで、市の除雪の現状認識と今後の対策を伺います。</p>	

<p>3 復興に若者と女性の活用を</p>	<p>安倍政権は、「女性の活躍」の推進を明確に打ち出しています。達増県知事は、所信表明演説の中で復興を進め、岩手の未来を切り開くためにも若者と女性の活躍が必要として「若者女性協働推進室」を設置することにしました。このように国や県では若者や女性の力を認め、復興の原動力とすべく施策を図ります。</p> <p>しかし、宮古市の経営方針を見る限り、当市にはそのような動きが見られません。そこで、市の見解と今後の方針を伺います。</p>	
-----------------------	--	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月26日(水)

質問順位 2番

質問者 議席番号 12番 橋本久夫議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 がん教育について	<p>がんは、日本人の2人に1人が罹る「国民病」と言われる疾患であるにもかかわらず、健康な時からがんについて学ぼうという意識は高いとは言えない。日本は、先進国の中でも高い喫煙率、低いがん検診受診率、治療のあり方など対策上の問題が山積している。がん克服に向けて最も大事なものは、がんの予防、早期発見であることは明らかで、そのためには、「がん教育」が非常に重要である。生涯にわたる健康づくり、検診の習慣化、罹患率の減少にもつなげるには、子どものうちから、「がん」に関する正しい知識と理解が必要である。</p> <p>このことから、小中学校での「がん教育」の取り組みを積極的に推進していくべきと考えるが教育長の見解を伺う。</p>	
2 海中環境調査と海洋実習について	<p>三陸の海は親潮と黒潮が出会うところで、日本有数の漁場となっている。しかし、漁獲される水産生物の調査はされていても、それらの生物が生育するための環境についての調査はあまりされていないのが現状だ。2011年3月に発生した大津波は、三陸沿岸域の生態系に大きな影響を及ぼしたと考えられている。宮古湾においても津波以前から多様な生物の生息、藻場、干潟など自然環境が確認されている。そのことから津波後の環境がどのように変化しているのか調査することは重要であると考えます。</p> <p>東日本大震災後、浄土ヶ浜では地元ダイバーや宮古水産高校の生徒らによってガレキ撤去を主に調査活動が行われてきた。この活動は、日本有数の観光地「浄土ヶ浜」を復活させる大きな原動力となったが、ガレキ撤去作業終了と同時に、これに伴う調査活動や、宮古水産高校の生徒によるダイビング実習も浄土ヶ浜では出来なくなった。</p> <p>ダイビングにより、大津波で壊滅的な被害を受けた海中の環境や養殖資源を調査することは、地元の沿岸漁業復旧、復興に貢献するとともに、沿岸漁業者に立ち上がる勇気を与えることができる</p>	

	<p>極めて重要なものである。また、浄土ヶ浜は生徒が安全にダイビング実習を行う海域としても最適な場所である。</p> <p>このことから以下の点について伺う。</p> <p>① 環境調査、高校生の実習活動の場として、ルール化をし、浄土ヶ浜を特区的なダイビングスポットに出来ないか。</p> <p>② このことはジオポイントとしての観光ダイビングの可能性にもつながるが、見解を伺う。</p> <p>③ 地元ダイバーを活用し、四季を通じた宮古湾（汽水域、藻場等）の環境調査に取り組むべきではないか。</p>	
<p>3 文化の振興について</p>	<p>平成 26 年度の市教育行政方針において「文化の振興」についての方針が示された。大震災からの復興に向かって、地域の「文化化」というものも今後のまちづくりの中で重要となってくる。まちづくりの原点となるのは、そのまちの宝である。しかし、時代の変遷と共に多くの文化が失われつつある。さらに津波によって街並みも失われ、人々の記憶の中にしか存在しないものもある。今後のまちづくりにおいては、宝として地域社会に培われてきたもの、蓄積されてきたものを、もう一度探求しきちんと確認、共有することから始めなければならないと思う。地域の歩んできた文化を、形として見えていなかったものを顕在化していく事が大事である。その一つに「海のまち」の文化がある。鮭にまつわる歴史、先人たちが取り組んできた漁労文化、伝統風習、方言、造船の歴史と漂流史（それによって出来た露日辞書）、宮古海戦など後世に残すべく題材は少なくない。宮古港開港 400 年を機会に、以下の事業に取り組むことは出来ないか伺う。</p> <p>① こうした海にまつわる歴史文化資料の編纂、それらの資料展の開催と共に、編纂資料を学校教育の副読本としても使用できないか。</p> <p>② 明治政府が明治 5 年に製作した宮古港の海図第 3 号を復元できないか。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月26日(水)

質問順位 3番

質問者 議席番号 5番 長門孝則議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 JR山田線(宮古～釜石間)について	<p>東日本大震災で被災し運休しているJR山田線(宮古～釜石間)について、JR東日本は鉄道施設を復旧させて沿岸4市町に無償譲渡し、第三セクターである三陸鉄道へ運行を移管する案を提示しました。</p> <p>① この提案を、市長はどのように受け止めているか伺います。</p> <p>② 検討すべき課題は多くありますが、この提案の受け入れの是非について、いつ頃判断されるのか伺います。</p>	
2 市民憲章について	<p>市民憲章の前文に「宮古市、田老町、新里村が一つとなり、2005年6月、新しい宮古市が誕生しました。その後、2010年1月に川井村が新しいまちづくりに加わり、さらなる発展に向けて共に歩み始めました。」とありますが、宮古市、田老町、新里村が合併し9年目になり、川井村が加わって4年が経過しました。</p> <p>宮古市は一つであり、一体で新しいまちづくりを進めようとしており、市民一人一人が違和感なく、明るく幸せを願う理想郷となるよう、この前文の部分は早い機会に改めるべきと思いますが、市長の所見を伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月26日(水)

質問順位 4番

質問者 議席番号 24番 古館章秀議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
<p>1 都市計画法に基づく工業専用地域等の見直しについて</p>	<p>当市の宮古都市計画図の凡例によると都市計画法に基づく工業専用地域が4箇所、準工業地域が6箇所あると思われます。</p> <p>それぞれの意味を調べたところ、工業専用地域は、「都市計画法による用途地域の一つで、工業の業務の利便の増進を図る地域である。住居の建設ができないため、この地域に住むことはできない。」と、準工業地域は、「都市計画法による用途地域の一つで、主に環境悪化の恐れのない工場の利便を図る地域である。住宅や商店など多様な用途の利便を図る地域であり、土地利用の選択肢が多い反面、しばしば住宅と工場・遊戯施設などが混在し、騒音などのトラブルが起こりがちでもある。」とありました。</p> <p>① 工業専用地域及び準工業地域としたそれぞれの根拠は何か伺います。</p> <p>② 工業専用地域と準工業地域は個人資産と思われるが土地所有者等の同意を得て用途地域としたのか伺います。</p> <p>③ 工業専用地域と準工業地域の地域区分にはどのような特典等を含め違いがあるのか伺います。</p> <p>④ 東日本大震災で未曾有の津波災害により、宅地や事業用用地の確保が非常に厳しい現状です。震災復興を加速させるためには、土地利用の選択肢が多い環境造成も急務であります。</p> <p>当市には、磯鶏一丁目に工業専用地域があり、工場はあるも用途制限の店舗が存在しています。</p> <p>磯鶏一丁目、二丁目の工業専用地域を現況に即して早急に見直しを行い、新たに準工業地域を設けるべきと思いますがいかが伺います。</p> <p>⑤ 平成26年度の経営方針で誘致企業については国の補助金を活用して工場等を新增設する取り組みを支援するとありますが、当市の現状では、誘致企業が津波災害等を避けて新たに工場等を整備する場所は、工業専用地域田鎖第1地割、</p>	

	<p>第9地割しかないと思います。</p> <p>経済常任委員会で現況視察を実施したところ、農地や湿地帯を好む雑草地がある等、誘致企業を迎える環境にないと思われました。雨水対策や大型車両用道路整備を早急に行い誘致企業等が容易に工場整備できる環境を構築する必要が急務であると強く感じました。土地所有者の協力をいただき、復興道路整備から排出される残土等を利用して整備を行ない、また、工業専用地域内には住宅があることから現状に即して準工業地域を設ける見直しを早急に取り組むべきと思うがいかがか伺います。</p>	
<p>2 東日本大震災復興住宅整備対象以外の宅地等対策について</p>	<p>東日本大震災により、応急仮設住宅等での暮らしを余儀なくされている被災者の方々の宅地等の確保等「すまいと暮らしの再建」については一刻も早い震災以前の暮らしを取り戻すための施策が講じられ、高く評価しております。</p> <p>しかし、被災されない市民の方々が定住化するための住宅用地確保が難しいとの理由で、他市町村への住宅建築を余儀なくされた市民もいる実態もあります。人口減少に歯止めをかけ、定住化するためには、住宅用地の確保が大きな条件の一つになると思います。</p> <p>① 経営方針で「安心と活力を生み出す土地利用の促進については、土地利用のあり方について検討し、安心して暮らすことのできる住環境の確保」とありますがどのような施策を考えているのか伺います。</p>	
<p>3 木の博物館の整備状況と調査資料等の活用状況等について</p>	<p>旧川井村で作成された「木の博物館」構想推進計画については、木の博物館推進委員会委員長答申のなかに、「川井村の総面積の9割が森林であり、各森林所有者の財産にとどまらず、地球規模の財産として未来永劫適切に管理と活用を推進していかなければなりません。計画はその指針として妥当と認める」とされております。計画では木の博物館の意義と創設の背景、基本構想、村全域の概況、課題、博物館の具体的な方策、構想の年次計画からなっており、平成13年から平成17年度までの基本計画が示されております。計画が示され合併した後も事業は継続され10年以上が経過しております。</p> <p>① 木の博物館構想の策定の理念では、主役は「木(樹)」とし、その集団としての森林と人との関わり、特に文化・文明の発展との結びつきに主眼がおかれるべき。どのような立場や条件を持った人にもやさしいユニバーサルデザインを念頭に</p>	

	<p>直接ふれあい、楽しめる形体とし、木や森林の生態、自然保護の大切さなど身近に学習し、これらの総合的な情報を村内外に広く提供することを理念とするとしております。基本要素は人と木（森）の関わりあいであり、建物（施設）はあくまで、これらに付随するものと位置づけ、働き（機能）は相互の連携により充実される。博物館資料は建物内に豊富に収集、保管し展示するものではない。としておりますが、計画書が作成され14年の歳月が経過したことから調査資料等も膨大になっていることと思います。どのように整備保存をし、木の博物館利用者に活用されているのか伺います。</p> <p>② 14年の歳月が経過したことに伴い成果と課題は何か伺います。</p> <p>③ 合併により旧川井村として位置づけた計画を今後どのように位置づけていくのか伺います。</p> <p>④ 分館2号育林の森地内で牧草や笹等に覆われ、樹木が育つ環境にはほど遠い地目において毎年、育樹体験学習会が実施され、市民参加による森の再生が進められてきてすばらしい取り組みをしていると高く評価しております。</p> <p>牧草地の多くの面積が笹に侵入され、樹木が生長する環境にない現状を拝見し、この場所こそ森の再生に取り組むべきであり、宮古市の将来像の一つ「森」を市民総参加のもと学習しながら森づくりに取り組むべきと思いますがいかがか伺います。</p> <p>⑤ 木の博物館案内人の現状と課題について伺います。</p> <p>⑥ 区界ウォーキングセンター、薬師漆塗工芸館、北上山地民俗資料館を木の博物館案内所としていますがそれぞれの職員が「木の博物館」の案内ができる状況か伺います。</p>	
--	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月26日(水)

質問順位 5番

質問者 議席番号 16番 中嶋 榮 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 住居表示の整備について	<p>地番を住所として使用すると、住所がわかりづらく、具体的には救急車等の緊急車両がなかなか目的地に着かない。また、宅配業者、郵便局等、住所を頼りに仕事をしている業者は、能率低下をおこし業務に支障をきたす。さらに、訪問者が目的の家を探すのに苦勞する等の障害がおきてきます。地番の影響を受けない合理的な住居表示制度の改善が必要と思いますが、政策的判断をお伺いします。</p> <p>宮古市は、昭和40年7月から市街地の住居表示整備事業に着手し、周辺部へと事業を進めてきましたが、平成9年より事業が止まり、今日に至っています。その理由は何であったのかお伺いします。</p> <p>昭和16年2月に山口村、千徳村、磯鶏村と合併した旧市域はほぼ住居表示の整備事業が終わっていますが、昭和30年に合併した崎山村、花輪村、津軽石村、重茂村の市街地周辺の地域はいまだ手つかずの状態です。事業の推進に向けた誠意ある答弁を求めます。</p>	
2 消防団の処遇改善について	<p>昨年の臨時国会で「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立し、この法律の下で消防団の処遇改善と装備の拡充が図られたと報道されていますが、具体的に何がどのように拡充されたのかお伺いします。</p> <p>消防団の年額報酬や出動手当については交付税で措置されていると聞きます。しかし、交付税で措置された単価を確保されていない自治体が非常に多いとも聞きます。宮古市はどのような状態なのかお伺いします。</p> <p>自治体職員の入団は、それぞれの自治体の裁量に委ねられてきましたが、職務に支障がない限り認めるよう義務付けられました。市長の見解をお伺いします。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月27日(木)

質問順位 1番

質問者 議席番号 20番 工藤小百合議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 災害公営住宅について	<p>東日本大震災後、被災された方々の仮設住宅生活も3年になろうとしています。待ち望んでいた災害公営住宅も地域によっては完成、あるいは来年度完成と説明があり、明るい兆しが見えるようになりました。</p> <p>そこで伺います。</p> <p>① 他市では、災害公営住宅入居率は60～70%であり空き室について募集している。宮古市は他市の状況をどのように考えているのか伺います。</p> <p>② 災害公営住宅入居後の一人暮らしの入居者の見守りについて伺います。</p> <p>③ 将来、人口減により考えられる問題は何か伺います。</p> <p>④ 災害公営住宅の周辺には公共施設も建設されるが公園に災害記念碑等の計画があるのか伺います。</p>	
2 災害対策について	<p>① 自主防災組織等の育成、支援、活動について伺います。</p> <p>② 災害対策基本法の中で、地域防災計画に地区防災計画を定めることが提案できることとなり、具体的手続き等については内閣府令で定める予定とありますが、宮古市が地区防災計画を定める予定があるのか伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月27日(木)

質問順位 2番

質問者 議席番号 4番 佐々木 勝 議 員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
<p>1 盛岡宮古横断道路及び三陸縦貫道路の整備を受けてのまちづくりについて</p>	<p>宮古西道路と宮古道路の事業化が決定されたのは平成15年度ですが、東日本大震災を契機に復興道路として前倒しで整備し、10年以内の全線供用を目指す方針が明確に示され着工しております。当市を含む沿岸部と内陸部との経済格差が生じている最大の要因は、物流の要である高速交通網の整備が遅れていることであると指摘されておりますが、その課題解決に向けて大きく前進したと言えます。全線整備の年限が明示されたことを受け、今後私たちに求められることは、この道路を最大限に生かしたまちづくりをどのように描くかだろうと思っております。そこで、次の3点について伺います。</p> <p>① 近年、宮古港の貨物取扱量は激減していますが、宮古西道路の整備は宮古港の利用促進を最大の目的としていると認識していますが、道路整備後の利用促進策をどの様に描いているのか伺います。</p> <p>② 今後、物流の要衝となり、震災後津波の影響のない田鎖・松山地区に事業拠点を移す動きが顕著であります。幹線道路の整備を含めた地域づくりをどの様に描いているのか伺います。</p> <p>③ 現在、田鎖地区はほとんどが農振地域となっており、工業専用地域として用途指定されているのは24haとなっておりますが、幹線道路がないことから雑然とした利用実態は否めません。今後、道路事情が大きく変化することから民間資本による開発が激しくなることが予測されております。秩序ある地域開発に誘導するためにも、見直しも含めた土地利用計画の策定が必要だろうと考えていますが当局の見解を伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月27日(木)

質問順位 3番

質問者 議席番号 13番 松本尚美議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 平成26年度経営方針について	<p>今定例会冒頭、市長の平成26年度経営方針を拝聴いたしました。全体的にはそつなく方針なり、施策の展開を述べていますが、分野によっては抽象的なものが多く、予算の提案も含め、明確に理解できないものもあることから、一部ではあります。次のことについて質問させていただきます。</p> <p>① 宮古市総合計画後期基本計画策定について</p> <p>「震災からの復旧はもとより、復興に向けた取り組みの指針としても重要である。復興計画との整合性を図り、定住促進の視点を入れ込み策定する」とあります。初めて定住促進の記述が出てきたことは評価したいと思いますが、具体的な施策が見えませんが、新年度において見えてくるのか伺います。</p> <p>市長の描いているものが、一つでもあるとすればご教授願えれば幸いです。加えて、新市建設計画（特例債事業等も含めた）の見直しも提案しているところではありますが、その考えについて伺います。</p> <p>② 都市基盤づくりと産業基盤の集積を図る土地利用について</p> <p>「復興に向けた3つの柱の各施策に基づく取り組みの推進と安心と活力を生み出す土地利用の促進についての検討をし、産業基盤の集積を図る土地利用を進める」としてはありますが、被災地に限らず、市域全体を見渡した中で、本来着実に進めるべく計画と財源の確保が必要と考えます。経営方針で示すべきと提案したいと思いますが市長の見解を伺います。</p> <p>③ 復興のリーディングプロジェクトと位置付けられているプロジェクトのスマートコミュニティ事業とブルーチャレンジプロジェクト事業について</p> <p>これらの事業の進捗が見えない中、メガソーラー（太陽光発電）事業が市外資本で進められています。しかも、事業者の取り組みを積極的に支援するとあります。地元事業者でやれる可能性がある発電事業を何故に地元展開を積極的に進めないのか。違和感を持つのは私だけでし</p>	

ようか。また、ブルーチャレンジプロジェクト事業は未だ先が見えない状況にあります。今後の見通しはどうか伺います。場合によっては、別のリーディングプロジェクトにシフトするのか、いつ頃を目途に判断するのか伺います。

④ 道路整備について

「国、県が実施する三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路、国道340号立丸峠トンネル、押角トンネル、重茂半島線の事業推進の支援と早期完成を要望する」とだけあります。復興道路、復興支援道路は単に災害時のみを想定した災害に強い道路だけでなく、たまたま大震災後、財源確保のために付けられた事業施策名称と考えます。大事なことは、災害時のみならず平時において、観光、物流等の経済の動脈として、いかに活用するか、できるかが重要であり、それらに関連する事業、施策の企画、立案、実行が今、求められているものと考えます。残念ながら、経営方針の中で一言も触れられていません。提案も含め、何回か質問させていただいていますが、改めて対応施策について市長に伺います。

⑤ 観光振興について

「国の「みちのく潮風トレイル」整備と歩調を合わせ、また、月山展望台関連施設の環境整備を進める。また、「三陸復興国立公園協会」などの広域的な取り組みに参画し、効果的な誘客対策に取り組む、加えて、浄土ヶ浜の駐車場整備をする」こととなっていますが、具体的に観光客の入込数をいくら見込んでいるのか伺います。

更に、園地周辺の魅力をアップさせ、リピーターも含め将来的な誘客に資する事業、施策はどう検討されているのか、市長の構想を伺います。

⑥ 介護の現状改善について

経営方針に介護の現状改善に何故触れられていないのか伺います。介護の現状改善は2025年問題も含め、当市の大きな市政課題と捉えています。市長の認識を伺います。特にも、施設入所ができず日々疲労困ぱいし、最悪の事態に至る可能性を訴える介護者が少なからずいる現状を市長はどのように捉えているのか、経営方針の中で示したからといって、改善、解決にすぐ至るものとは思いませんが、市政の大きな課題である以上、方向を探るべく明確に示すべきと考えますが、市長の見解を伺います。

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月27日(木)

質問順位 4番

質問者 議席番号 6番 落合久三議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 震災復旧の到達を踏まえた漁業振興・復興の課題について	<p>大震災から今日までの復旧の到達と今後の課題について。</p> <p>① 養殖漁業、共同利用船確保、サケ増養殖、定置網漁、漁業従事者の推移とその克服の課題は何か。</p> <p>② 空いた養殖施設を埋め収穫量を維持する方策として漁協経営を提起したが、その進捗状況は。</p> <p>③ 漁船漁業振興の課題で沿岸漁民が「刺し網でサケが獲れるよう」と県に要望しているが、市としての基本的な認識はどうか。</p>	
2 住宅再建への支援策の充実と住宅二重ローン対策について	<p>住まい再建は復興の証であり、それは人間生活を送るうえで欠かすことのできない要件であり、基本的人権に属する問題でもある。</p> <p>震災以後、昨年末までの持家の建築数は691戸であり、この間の支援策が大きく寄与した結果ともいえる。今後、防集、漁集、都市再生区画整理事業などの進展と相まって住宅建築が本格的に進む。同時にそれは被災者の中で「仮設からの移動と格差」が広がることを意味する。</p> <p>① 住宅再建を加速させるうえで「震災復興特別交付税」の活用を以前市長が話した「直接支援」に振り向けるべきだと思うがどうか。</p> <p>② 支援策では仮設住宅から引っ越す際の支援金が防集事業には制度としてあるが他にはない。「震災復興特別交付税」で支援すべきだと思うがどうか。</p>	
3 介護予防サービス事業について	<p>国は介護保険事業で要支援の認定者の受けてきた介護予防サービスを保険から外すとしている。介護保険事業の中の「暴挙」と言える。</p> <p>① 市は今回の要支援者の「保険外し」の方針に対してどう受け止めるか。国に対してこの愚挙をやめるよう強く要請すべきだと思うがどうか。</p> <p>② 介護予防サービスは重度化を防止し、多くの認定者、高齢者が持っている生活能力を維持し、高めるためのものである。このサービスを維持する決意と方策について問うものである。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月27日(木)

質問順位 5番

質問者 議席番号 25番 内館勝則議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 宮古市の空き家対策について	<p>高齢化世帯が増え、いずれは住人が亡くなったり、施設や親族等の住居の引越し等様々な要因で、川井地区や新里地区の山間部そして中心市街地を問わず、空き家が急増する傾向にある。倒壊の恐れがあり、治安悪化が心配という市民の不安や害虫、害獣の棲み家になり、景観、環境の悪化が懸念され苦情が寄せられることも想定される。空き家は防災・防犯の面で問題があり、長年にわたり使用されず適正管理されないと老朽化し危険である。市民の安全を欠く恐れがあり、不安を感じる場所であり、議員であれば一度は空き家などに関する相談を受けたことがあり、かつ解決できないことが多いのではないだろうか。そして、何とかしたいという共通の認識があるのではとの思いから伺う。</p> <p>① 宮古市の空き家の現状について ② 老朽化した危険な空き家の現状と対策について ③ 普通（誰も住んでいない）の空き家対策について ④ 管理不十分な空き家の実態と市民からの苦情に対する市の対応（相談窓口）について ⑤ 国県の支援策の活用について ⑥ それぞれの角度で条例、要綱などを検討してはどうか。</p>	
2 宮古市教育行政方針について	<p>社会教育の推進において、社会教育関係団体の果たす役割は極めて大きい。平成26年度宮古市教育行政方針の説明があったが、社会教育に関しての文言だけでなく、社会教育関係団体の育成に関して一字も見受けられないことに問題意識を持ち、伺うものである。</p> <p>なぜ、本市の教育行政方針に社会教育の文言が一つも入っていないのか、社会教育団体の育成が入れられていないのはどういう背景や理由から入っていないのか伺う。このことは、本市の次代を担う人材育成に極めて重要な事項であるのでなるべく詳しく伺う。</p> <p>社会教育団体は地域社会の変化に伴って生ずる生活課題を解決するとともに集団中での人間形</p>	

成を行うために果たす役割は重要である。社会教育団体は次の三つに分類することができる。

一つ目は、構成員の学習向上を図ることを主たる目的とする団体で、PTA、地域婦人会、地域子ども会、地域青年会など、地域の実情に即して構成員自らの学習・向上を図ることを目的とする団体があり、このほか、趣味のグループなど同好的グループもある。

二つ目は、構成員の学習向上とともに対外的に社会教育の振興を図る事業活動を重視する団体で、農村青年クラブ、BBS連盟、青少年赤十字、ボーイスカウト、ガールスカウト、青年海外協力隊など全国的な組織があり、各地域でそれぞれ活動している団体がある。

三つ目は、対外的に社会教育の振興を図る事業を行う団体の連絡協調を図るために組織された社会教育関係団体連合会、レクリエーション協会、ユースホステル協会など、もっぱら対外的に社会教育の振興を図る事業を行う団体がある。

一般に社会教育関係団体とは、社会教育法で「法人であると否とを問わず、公の支配に属しない団体で、社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とするもの」をあげている。即ち、社会教育に関する事業を主たる目的とする団体であるので、青年団体、婦人団体はいうに及ばず、体育やレクリエーションを行う団体なども広く含まれる。社会教育関係団体の認定にあたっては、あくまでも活動内容とその発展性を中心にすべきものとされている。

しかし、現状においては、市町村合併を機に町村は市の方針に合わせ、地縁集団として戦後の混乱期から復興を支え活動を継続してきた歴史ある地域婦人会や婦人消防協力隊は姿を消し、今となつては、組織化を進めようにも困難を極めている。勿論、自主的な社会教育活動を進めている団体は多いとはいえ、社会教育関係団体の認定をされているのかどうかも定かでなく、PTAは学校がある限り存在するが、かろうじて婦人団体は敬老会を主催する団体として残っているが、団体がかつて主体的に取り組んできた「冠婚葬祭の簡素化運動や豊かな海を守るための合成洗剤の使用禁止運動、婦人模擬議会」などの地域課題に積極的に取り組む活動は姿を消した。青年は若干集落のお祭り青年会として存在するものの壊滅状態にある。

また、団体は人集め主義、事業中心等の活動から脱しきれない現状にあり、ひとりひとりの自発

	<p>的な活動の促進を図る必要があり、更に、これからの団体育成を考えると青少年、婦人、高齢者団体の育成はもとより、目的別のグループなど小集団の育成も重要な課題となっている。</p> <p>本市の社会教育団体の組織、主な活動内容と教育委員会がこれらの団体にどのように関わっているのか伺う。</p>	
--	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月28日(金)

質問順位 1番

質問者 議席番号 23番 崎 尾 誠 議 員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 産業育成について	<p>① 市長は、産業立市を公約に掲げ、基金を設けて進めてきていることは大変良いことと思うが、今までの取り組みの中で成果や課題をどのように感じているのか。</p> <p>② 現行の担い手育成制度は、農林業や漁業の支援策に差異があるように思い改善が必要と考えるがどうか。</p> <p>③ 私は、第一次産業の振興のためには担い手を増やすことが何よりも重要と考え、他にないような制度をつくり、全国に宣伝し、Iターン、Uターンを促すことが必要と考えるがどうか。</p> <p>④ 宮古市の特産品であるシイタケが、風評被害により、価格の暴落が起きている。その一方で汚染されていない原木の価格が暴騰している。シイタケ生産者に対しての支援策をどのように考えているのか。</p>	
2 生活関連道路の整備について	<p>① 県道259号の崎山から休暇村までの間は、交通量も多く通学路にもなっているのに、歩道が無く非常に危険を感じる。県に強く要望し一刻も早い改良が必要と考えるがどうか。</p> <p>② 崎山の市道千束中根線も通学路にもかかわらず幅員が狭く歩道も無い。改善を望む。</p> <p>③ 同じく崎山箱石線もようやく小型自動車が走れる状況で緊急車両の通行も困難な状況で改善が必要だがどうか。</p> <p>④ 市道神田佐羽根線にある小田代川橋は、カーブに架かっていて、大型車両の通行が困難であり改善が必要だがどうか。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月28日(金)

質問順位 2番

質問者 議席番号 21番 高橋秀正議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 JR山田線について	JR東日本は、鉄路や駅舎を復旧したうえで三陸鉄道への無償譲渡、10年間の赤字補填等を提案したと報道された。JRだろうが三陸鉄道だろうが鉄路を早期に復旧させることが大事である。鉄路の復旧は「復興のシンボル」であり、国の支援が法律上難しいならば、三陸鉄道に移管する方向で条件闘争に入るべきだと思うが、市長の見解を伺う。	
2 金浜復興団地の下水道整備について	金浜復興団地下水道整備計画について、維持管理上からも浄化槽設置に変更すべきと提案してきたが、現在までの状況を伺う。	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月28日(金)

質問順位 3番

質問者 議席番号 18番 横田有平議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 養殖ワカメ・昆布の漁業行使者対策について	<p>養殖ワカメ・養殖昆布は、昭和39年後半から40年にかけて開始され、比較的安定した漁業として発展してきた。この間、市からも漁業共済掛金の助成や利子補給のほか後継者対策も実施されてきた。</p> <p>しかし、東日本大震災で被災したため設備投資や先行きが不安だとしてやめる人が続出した。養殖ワカメの漁業行使者数は、震災前と比べ県下で510名の減で1,061名、下閉伊地区でも126名減の320名、重茂地区で53名減の128名、田老地区でも18名減の75名となっている。また、重茂地区では、昆布もワカメに匹敵する位の水揚げがあるが、養殖昆布漁業行使者数も減少傾向にあり、誠に憂うべき事態である。ついては次のことを伺う。</p> <p>① 平成25年度において後継者育成事業による就業者は何名か。また、今の対応で十分と考えているか。</p> <p>② 漁業行使者減少が顕著だが支援策も含め漁協と協議したことはあるのか。</p> <p>③ ワカメはブランド化されているが養殖昆布はワカメに匹敵するほど水揚げがあるのにあまり知られていないようだ。市としてもブランド化に努めてほしいと思うがどうか。</p> <p>④ 漁港関連道や漁港、省力化対策など就労環境向上と、収入増大が究極の後継者対策と思うが、市としての支援策は何か。</p>	
2 栽培漁業の推進について	<p>岩手県では栽培漁業に力を入れている。特にアワビ、ウニ、ヒラメ、そしてナマコを種苗生産して漁業者の所得向上を図っている。</p> <p>また、東北水研宮古でもアワビやヒラメ、クロソイなども積極的に種苗生産研究を行っている。</p> <p>特に、県では平成19年にナマコの増産に力を入れるとして洋野町の栽培漁業協会を中心に種苗生産し、沿岸6箇所放流実証試験を行い成果寸前に東日本大震災によってほとんど流失したといわれている。</p> <p>しかし、県漁連の共販を見ると県下で平成22年</p>	

	<p>10.7tだったものが、平成24年には8.9t、平成25年には29.7tと被災前の約2.8倍となっている。かつて中国のバイヤーは宮古湾内でナマコだけで10億円の水揚げを示唆したと聞いたことがあることと、宮古市が企業誘致した神野商店も干しナマコを加工しているとも聞いているため、栽培漁業に新たな有望種が見つかったと思っている。</p> <p>青森市では、市直営で水産指導センターを設置し、ナマコ、ホタテの種苗生産を行っている。水揚げもナマコだけで100t、2億700万円もある。</p> <p>当市としても一目に値すると思う。ついては次のことを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 岩手県が計画している水産動物の種苗の生産、放流、育成に市としての関与はどうか。 ② 漁協と協調し、宮古湾内におけるナマコの生息数と環境状況の改善を図るべきと思うがどうか。 ③ 誘致企業のアワビ、ナマコの扱量の状況はどうか。 ④ 江戸時代、いりこ（干しナマコ）は宮古の特産であり、中国に輸出され貴重な南部藩の財源でもあった。復活の可能性はどうか。 	
<p>3 高速交通時代への対応について</p>	<p>三陸沿岸道路について、三陸国道事務所ではかつてない財源確保ができたという。工事も見えて進んでいる。国道106号についても、復興道路としてそれぞれ改良区間が事業着手されている。</p> <p>国道340号の立丸小峠トンネルも近く入札と聞く。北部環状線も平成28年度完成予定。重茂半島線も平成30年度完成を見込むとしている。あと数年で宮古市は高速交通時代に突入する。人口減少対策や、経済振興につなげる復興の起爆剤とすべきである。しかし、交通網が良くなることによって人口や経済が都市部へ流失することも考えられる。よって次のことを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① よく国道106号を例にとるように復興道路というがその意味するものは何か。 ② あと数年で、当市はかつてない道路整備がなされるが、経済効果を高めるための方策など検討しているのか。 ③ 人口流失、観光客の素通りも考えられるが、対策は何か。 ④ 道路整備による市の明るい将来展望は何か。 	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月28日(金)

質問順位 4番

質問者 議席番号 11番 田中尚議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 まちづくりの基本目標について	<p>東日本大震災は、地方都市の過疎化と少子・高齢化が中心の将来予測を前倒して実現させる原因となりかねない。一方で人類生存に向けた地球温暖化抑止策の具体化も求められている。</p> <p>緊急避難対応が中心の復旧期から再生期と位置付けられている今年度以降の行政施策は、この基本に照らし、目標にそぐわない政策は見直す勇気と見識が必要と考える。市では人口維持に必要な産業振興分野での各種施策に加え、保育料軽減や児童の医療費無料化など福祉施策の充実を図って来たが、今後は住み続けることが可能な定住化施策の具体化が必要になっている。</p> <p>(1) 地球温暖化抑止策について</p> <p>原発と石油エネルギー依存から太陽光、風力、木質バイオマスエネルギーなど再生利用可能な資源の利活用計画の推進のため各課が緊密に連携でき、その効果の期待できる横断的な組織をつくるべきではないか。</p> <p>石油エネルギー消費の最大の原因は自動車であり、その普及を促進させてきたのが高速道路を柱とした全国各地での道路整備といえる。道路との調和を図りながら公共交通網の一翼を担う地方鉄道の今後のあり方をどう捉えているのか。</p> <p>① JR山田線(宮古～釜石)の三鉄移譲案を是とする理由は何か。</p> <p>② JR山田線(宮古～盛岡)の今後の見通しはどうか。</p> <p>③ 同線のうち、宮古～釜石間の乗車利用実績は示されたが、宮古～盛岡間の利用実績はどうなっているのか。</p> <p>「環境モデル都市」を宣言する自治体がある中で太陽光発電パネル設置補助の実現以後、大目標になっているスマートコミュニティ都市の実現に向けた工程表及びその進捗状況はどうか。</p> <p>(2) 定住化促進策について</p> <p>定住化の前提となる雇用の場の確保を考える際、仕事、住まい、市の立地条件などの整備課題が問題になる。市の基本的な対応策を示されたい。</p>	

	<p>(3) 防災施設整備について</p> <p>閉伊川水門の計画変更に伴う住民への説明がなされていないとの声も聞かれる。閉伊川の仮締切りという仮設工事と計画変更にともなうメリット、デメリットなどについて県から市への説明はどうなっているのか。津軽石川とともに閉伊川という巨大な遊水地機能を生かさない防災施設の整備は大震災の教訓を無視したものとする。見直しの可能性は全くないのか。</p>	
--	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月28日(金)

質問順位 5番

質問者 議席番号 7番 茂市敏之議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 高齢化社会への対応について	<p>① 戦後に生まれた団塊の世代が後期高齢者になるまで残り8年と迫っている。日本経済新聞社が昨年8～9月に実施した全国市区の「高齢化対応度」調査結果が11月に発表されたが、アンケート調査に回答した702市区中、宮古市は491位になっており対応が遅れていることが明白となっている。高齢化社会への対応は一朝一夕で出来るものではなく、このままでは福祉制度の狭間に落ちる人が増加することを心配する。</p> <p>そこでまず、高齢者の生きがい対策について伺う。市内老人クラブの運営状況はどうか。また、どのような支援をしているのか伺う。</p> <p>② 11月9日の新聞によると、宮古圏内の特別養護老人ホームの早期入所待機者135人に対し整備数が75人分足りないことが報道された。将来の入所待機者を想定し、需要とかけ離れた状況にならないように整備すべきだ。なぜこうなったのか伺う。</p> <p>③ 入所待機者の増加は、そのまま居宅介護の増加ということになる。介護の辛さはやった者でなければ分からない。虐待とは紙一重だ。現状の居宅介護の状況はどうか。虐待はないか伺う。</p> <p>④ ひとり暮らし高齢者の孤立死防止のため、緊急通報装置の貸し出し要件の緩和をお願いしてきたが、今年度から緩和していただき高齢者が要望すれば設置してもらえらることになったが、今年度の利用者数が逆に減っている。どのように周知しているのか伺う。</p> <p>⑤ 要介護者も家族も、介護通院支援事業があることを知らなかったという事案があった。現在どのような方法で周知しているのか伺う。</p> <p>⑥ 日常生活用具給付事業は、寝たきりやひとり暮らし高齢者等に対し日常生活用具を給付(貸与)することにより、日常生活の便宜を図り生活の向上を図ることが目的であるが、平成20年から給付実績がない。これで給付事業といえるのか。検討すべきと思うがどうか伺う。</p>	

	<p>⑦ ひとり暮らし高齢者や障がいをお持ちの方々に対する見守り活動は、孤立死防止や病気の早期発見等から大変重要である。本市の見守り活動はどのような状況か。先進自治体では、玄関に旗を掲げたり、ガスや電気の使用状況から判断するものなど多岐にわたっている。本市の将来の見守り方法をどう考えているか伺う。平成23年3月定例会で各地区にボランティアの結成を要請すべきと提言し、「関係機関と連携し働きかける」と答弁いただいたがどうなっているか伺う。</p> <p>⑧ 人口減少とともに各地区でも小売店が減少しコンビニだけとなったが、コンビニまでの道は遠く車の無い高齢者には大変な時代となった。まして沢々の集落は移動販売車が頼りだ。宮古市全体では、どのような状況か。私は移動販売の方々と地域割や販売回数等を協議し、当面継続していただくために走行キロ数により燃料代を補助してはどうかと考えるが伺う。</p> <p>⑨ 限界集落の概念は「過疎化などで人口の50%以上が65歳以上の高齢者になって冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難になっている集落を指す」とのことだが、年齢だけみれば宮古市内すべての沢々の集落は限界集落になっていると考えられるが、市当局はどう判断しているか伺う。</p> <p>また、10年後行政の手が行き届くかと心配する。私は市営住宅への集団移転しかないように思うがどう考えているか伺う。</p> <p>⑩ 高齢者の増加により、当然、認知症高齢者も増加する。私は、平成22年12月定例会で成年後見制度について質問したが、認知症の方々の権利擁護が必要である。この制度の利用者数を盛岡家庭裁判所宮古支部から伺ったが少ないように思うが市当局はどう判断しているか伺う。</p>	
--	--	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月3日(月)

質問順位 1番

質問者 議席番号 3番 竹花邦彦議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
<p>1 JR山田線の早期復旧とJR東日本の三陸鉄道移管・運営提案について</p>	<p>① JR山田線(宮古・釜石間)の三陸鉄道運営に関する提案について、2月14日の議員全員協議会で山本市長は「前向きの提案と受け止めたい」と述べ、JR東日本の提案を評価する考えを示した。</p> <p>市長がJR東日本の提案を評価する理由は何か、伺います。</p> <p>② 三陸鉄道移管・運営案はJR東日本の赤字地方線切り捨て、公共交通事業者としての社会的責任の放棄にとどまらず、地域雇用の喪失と人口の流出、沿線自治体の財政負担等々、多くの問題点を指摘できる。宮古市としてクリアしなければならない課題をどのように捉え、考えているのか。市長の課題認識を具体的に示されたい。</p> <p>③ JR山田線の早期復旧を目指し、利用促進策を示しながら岩手県や沿線自治体との連携を一層強化し、国やJRに引き続き働きかけを強めていくことが第一義的に求められていることではないか。</p> <p>改めて、JR山田線の早期復旧に向けた取り組みについて、市長の基本姿勢を伺う。</p>	
<p>2 医療・介護・子育て支援の課題について</p>	<p>① 市立診療所の医師確保について</p> <p>平成26年度宮古市経営方針の中で、山本市長は「診療所における医師体制の充実を図る」と述べられたが、市立診療所の医師確保・増員に向けた取り組み状況と見通しを伺う。</p> <p>② 介護保険制度見直しについて</p> <p>2015(平成27)年介護保険制度改正の方向は、社会が支えるシステム(公助)から自立・自助への方向転換が一層強まるものとなっている。</p> <p>要支援者サービス(介護予防サービス)に係るデイサービス、ホームヘルプサービスの市町村事業への移行は、介護サービスの市町村格差につながりかねない問題でもある。宮古市においては、現状の要支援者サービスを後退させないとの基本的立場で第6期介護保険事業計画策定作業を進め</p>	

	<p>るべきと考えるがどうか。</p> <p>また、第6期介護保険事業計画における宮古市の課題認識をあわせて伺う。</p> <p>③ 保育所の待機児童解消について</p> <p>新年度における保育所の待機児童解消の見通しについて伺う。</p>	
--	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月3日(月)

質問順位 2番

質問者 議席番号 26番 北村進議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 宮古市経営方針について	<p>「再生期」のステージ移った宮古市東日本大震災復興計画の実行にあたって、市民の参画と協働による今後のまちづくりの点から、以下の点について提言するとともに伺います。</p> <p>① 宮古市総合計画後期基本計画策定にあたり、「定住促進の視点を入れ込み」としているが、具体的にどのような視点を指すのか伺います。</p> <p>② 地場産業の育成で雇用を生み出すまちを目指すべきであると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三陸ジオパーク及び交流人口を増やす「学ぶ防災」の周知とともに充実を図ることは、宮古市の使命と考えます。一層の周知・充実を図る手立ては何か伺います。 	
2 教育行政方針について	<p>宮古市総合計画における教育の基本施策である「生涯学習の推進」、「学校教育の充実」、「スポーツ・レクリエーションの振興」、「文化の振興」について、平成26年度の教育行政方針が示されました。</p> <p>震災後の復旧復興関連の施策とともに、教育行政における課題について、以下の点について提言するとともに伺います。</p> <p>① 教育予算拡充で子どもたちが、生き生きと学べるまちを目指すべきと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館専任司書を配置し、一層の学習環境の整備を進めるべきであるが見解を伺います。 ・小中学校適正配置の計画の実施にあたっては、地域の振興の面から廃校後の校舎利用についても同時に示すべきです。適正配置実施計画策定にあたっては、地域振興課も策定に加えるべきと考えますが見解を伺います。 ・適正配置計画実施計画が進められている川井地区と新里地区の小中学校校地は借地か。廃校後の対応について伺います。また、他の市内の学校についても伺います。 	

	<p>② スポーツ施設の早期復旧と充実を図り、健康で明るく暮らせるまちを目指すべきと考えます。</p> <ul style="list-style-type: none">・赤前運動公園整備の基本方針について示されましたが、田老野球場は安全面において、被災場所での復旧は認められないとの説明でした。その面からいうと、赤前での復旧は、安全面での整合性がとれないのではないかと。・小山田テニスコート、浮棧橋整備の必要性と他のスポーツ施設の今後の整備計画について伺います。 <p>③ 国指定史跡「崎山貝塚」縄文の森公園整備事業について、改めて整備の必要性と意義について伺います。</p>	
--	---	--